

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	松宮 潔
所属機関名	工学部生命医療工学科
職位	講師
在籍年	16 年

教育の責任

工学部生命医療工学科に所属しており、臨床工学技士の業務に関連する医療機器についての原理、機能、適応（用途）、安全管理といった各論について解説する科目と、医用工学全体の総論について解説する科目、さらには、電気工学電子工学に関する実験科目を担当している。また、ゼミ生の特別研究（卒業研究相当）に関する指導も行っている。

教育の理念

学生が卒業後の様々な場面において未知あるいは初見の事柄に取り組むための知的姿勢を養うため、教育の方向性として、学生が「なぜそのようになっているのか、なぜそのようにするのか」を考えるようになることを目指している。

また、学生が学ぶことに対しともかくも前向きな気持ちになれるよう、教育の在り方として、学生が概略を理解し、わかった感じを味わうことができるように心掛けている。さらに、学生ができるだけ勉強しやすくなるよう心掛けている。

教育の方法・方針

学生が「なぜそのようになっているのか、なぜそのようにするのか」を考える機会として、授業において技術の原理や知識の背景についてできるだけ解説し、また、試験においてもそこを問う問題を積極的に出題している。

学生が、概略を理解し、わかった感じを味わうことで学ぶことに前向きな気持ちになれるようにするため、授業において「要するに」という話をしばしば取り入れるようにしている。また、そのことと関連して、記述力や学力が不足する学生であっても最低限の戦意を維持できるよう、試験問題は選択式としている。

学生ができるだけ勉強しやすくなるようにするため、実験科目以外の授業は基本的に対面式、ライブ配信、VOD 配信の 3 通りで並行して行い、受講や復習の利便性を図っている。

教育の成果

技術の原理や知識の背景を解説し試験で問うことの効果は、今後、授業アンケートで設問として追加し確認したい。

授業において「要するに」の話を積極的に取り入れたことの効果は、授業アンケートの自由記述欄にて「わかりやすかった」といった旨の回答が散見されることから一定程度確認できているものと考ええる。

試験問題を選択式にしていることの効果は、今後、授業アンケートで設問として追加し確認

したい。

授業を対面式，ライブ配信，VOD 配信の3通りで並行して行っていることの効果は，授業アンケートの自由記述欄にて「復習や試験前の勉強がやりやすかった」といった旨の回答が散見されることから一定程度確認できているものとする。

今後の目標

学生が「なぜそのようなになっているのか，なぜそのようなにするのか」を考えることを一層促進するため，柔軟な動機づけとして，考えるプロセスを体験し効果を実感する授業方法を考えたい。また，硬めの動機づけとして，試験問題を工夫し，技術や知識そのものを問う問題と，その原理や背景を問う問題とをセットにして出題するようにしたい。

また，これまで主に各回授業の中盤において行ってきた「要するに」の話を授業冒頭にも配し，学生が授業の位置付けと概略を理解した上で授業に臨むことが容易になるように工夫したい。

根拠資料

授業での配布資料，授業動画，試験問題，授業アンケート